

街かど gallery



桜の押花に一瞬でその虜になっていました。押花を習い始め楽しさはもちろんですが、奥深さには本当に驚きました。庭先の美しく可愛い花、野菜、雑草、木の皮など花材に合せて和紙を選ぶのには悩んだりしますが、伊藤先生のアドバイスでどうにか作品が出来ています。百点満点の作品は、なかなか出来ませんが、文化祭や押花展示会に出展し、多くの方々に観ていただき、感動と共に大きな励みになっています。押花は、私の人生の中で心が癒され充実した時間を与えてくれる存在です。



立花町白木 鎌田 孝子

私と押花との出逢いは、旅先のホテルでした。屏風の中の月下美人と

「八女伝統本玉露」に 国が品質のお墨付きと保護 ～地理的表示制度(GI)～

「八女伝統本玉露」の生産は、110年以上続く伝統技法(自然仕立て・天然のわらを用いた「棚被覆」・手摘み)で行われており、全国から高い評価を得ています。この度、国が昨年創設した地理的表示制度によって、お茶では全国で最初に品質のお墨付きと知的財産としての保護を受けることになりました。

地理的表示(Geographical Indication)制度とは、長年培われた生産方式や気候・風土・土地などの産地特性により、高い品質と評価を獲得するに至った産品を国が保護するものです。店頭販売は、生産や袋詰め等の履歴を確認したうえで、今年が一番茶から行われます。すでに国連の世界知的所有権機関でも同じような定義がなされており、国際的な制度として活用が期待されています。

※国に登録された7つの農産品(平成27年12月22日) 「あおりカンス」(青森県)、「但馬牛」(兵庫県)、「神戸ビーフ」(同)、「夕張メロン」(北海道)、「八女伝統本玉露」(福岡県)、「江戸崎かぼちゃ」(茨城県)、「鹿児島島の壺造り黒酢」(鹿児島県) 福岡県農林総合試験場八女分場長 仁田原 寿一

八女茶で健康 第7回



GI マーク



八女伝統本玉露

野鳥ウォッチング ⑬ ヤマドリ(オス)

キジ科であるヤマドリ、世界中で日本にしかない鳥です。オスは尾が長く赤みの強い褐色です。山道で見かけることがありキジ位の大きさです。冬期は冬イチゴを食べ過ぎて過剰です。 矢部村 栗原 浩暢



今月の山柳



二月 まだ春寒の残る庭に、一つほころんだ梅の仄かな香りが漂って来ると春を予感する。すると「待ってました。」と古い脚も延びてくる。 ようこそと 寒さに耐えた 梅を褒め 八女川柳会 安達 昇

今月の色



梅に目白 鶯の羽のような色。江戸時代からの色名。 視覚デザイン研究所 「和の色のものがたり」より

如月のならわし、三日は節分、四日は立春である。福は内、鬼は外の豆まき行事より現在は恵方巻きのPRの方が優勢のような気がする。 小学一年生の時、前の晩節分の豆まきで拾った豆を学校へ持って行き、教室で食べていたのを先生に見つかり叱られた記憶が残っている。 梅一輪 一輪ほどの 暖かさ (風雪) 寒の厳しさは峠にかかる頃だが、少しずつ伸びる日脚の長さ、日日ふくらみを増す梅の蕾に小さな春を見つけ、一陽来復、一日も早いよか春の訪れを心待ちする時期である。戸外では椿の蜜を求めてメジロがチツチツと忙しく飛び回っている。そんなわけで今月は梅に鶯ならぬ目白である。

イベントのご案内
◆八女伝統工芸館
◆組紐屋さんの雛人形(池尻組工房)
◆和工房 山藤花(さんとうか)
◆古布縮緬のお雛様たち(期間中)
◆古布縮緬を使った「羽子板雛」作り教室
◆手もみ茶実演(体験)
◆八女民俗資料館(八女伝統工芸館別館)
◆おりなす八女 小ホール&桜カフェ
◆おきなマルシェ

健康よもやま話 ⑬



健康よもやま話 ⑬ 癌 姫野病院：松浦 緑郎 (健康管理士一般指導員)



●癌 癌は英語ではCancer(がん)、独語ではKrebs(クレブス)といい、いずれも「蟹」を意味します。このことは、古代の人々が癌のことを蟹の甲のように硬いものだと考えたからであり、日本の外科学の開祖である華岡青洲も「岩」という字を当てています。

この癌を一言でいうのは難しいのですが、あえていうと「癌とは、統制を失った異常な細胞増殖のこと」となります。それが病気のひとつと思われがちですが、秩序を失った細胞が一方的に増えることは人体にとって脅威であり、有害なことです。

一般に人間の細胞は常に分裂を繰り返して増えていきます。生まれたときは小さな赤ちゃんであったのが次第に大きくなっていくのは細胞が分裂して増えていくからです。しかし、この増え方は一定のコントロールの下に抑制されています。勿論、個人によって多少の違いはありますが、背丈はこれくらい、鼻や耳の大きさはこれくらいと、遺伝子の情報どおりにつくられていきます。

このように、「きちんと統制のとれた細胞増殖は成長」であり、「統制の失われた細胞増殖は癌」ということになるのです。同じ細胞分裂でも、そのやり方をひとつ間違えると人間にとって最も重要な成長が、たちまち人間を破壊する癌に変わります。

いずれにせよ、細菌感染などによる病気と違って、癌は自分の体の中から生じたものであり、しかも生命の基本である細胞分裂に関わっているところが、この病気の治療を困難にしています。

癌に罹らないためには綺麗な空気の下で規則正しく生活し、食物の好き嫌いをせず、繊維性の食物や魚などを中心に幅広く食べる。また、定期健診を受け、もし自分で異常に気付いたら直ちに病院へ駆けつける。これで万全とはいきませんが、癌の悲劇を防ぐためにも私たちが最低やるべきことです。